

関係各位

高知県病虫害防除所長

令和 5 年度病虫害発生予察技術情報（第 7 号）

トマトキバガの発生にご注意ください

10 月上旬より、県中央部のトマト産地に設置したフェロモントラップにおいて、トマトキバガ（写真 1）の誘殺が相次いで確認されています（表 1）。

トマトキバガは体長 5～7 mm の小さな蛾で、本県では本年 6 月に県中央部のトマト産地で初めて誘殺が確認されました。本虫の主要な寄主植物はトマト、ピーマン、ナス、タバコ、バレイショなどのナス科植物で、トマトでは、茎葉に幼虫が潜り込んで食害するほか、果実にも食入し果実品質を損ないます（写真 2、3）。

今後、施設栽培や露地栽培のトマトやナス科作物等での発生に注意してください。

記

- 1 ほ場内をよく見回り、見つけ次第捕殺してください。被害葉や被害果を見つけたらほ場から持ち出し、野外に放置せずに土中深くに埋却するか、ビニル袋に入れて一定期間密閉し成幼虫を死滅させるなど、適切に処分してください。
- 2 施設栽培では、開口部に防虫ネット等を設置し、侵入を防止してください。
- 3 現在、トマトキバガに対する登録農薬は表 2、3 のとおりです。薬剤防除にあたっては、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統（IRAC コード）の異なる薬剤のローテーション散布を行ってください。また、海外では、本虫に対して天敵（タバコカスミカメ）による防除効果が確認されています。

表 1 令和 5 年度 トマトキバガのフェロモントラップ設置市町村と誘殺確認状況

市町村名	香南市	高知市	日高村	佐川町	四万十町
誘殺確認日	7 月 19 日	6 月 19 日 7 月 18 日 10 月 5 日 10 月 12 日	10 月 12 日	10 月 12 日	誘殺未確認 (最終調査日： 10 月 17 日)

注 1) 各地点とも、調査は月 2 回実施しています。



写真1 フェロモントラップに誘殺された成虫



写真2 幼虫とトマトの葉の被害

注) 国外の発生ほ場で本県職員が撮影したもので、表面に残された薄皮を剥いで撮影しています。



写真3 トマトの果実の被害
(熊本県病害虫防除所提供)

表2 トマトキバガに登録のある薬剤(適用作物：トマト)

IRAC コード	農薬の名称	農薬の種類	希釈倍数または使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法
5	ディアナSC	スピネトラム水和剤	2500～5000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
	ラディアントSC	スピネトラム水和剤	2500～5000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
	ダブルシューターSE	脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤	1000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
6	アグリメック	アバメクチン乳剤	500～1000倍	収穫前日まで	3回以内	散布
	アフーム乳剤	エマメクチン安息香酸塩乳剤	2000倍	収穫前日まで	5回以内	散布
11A	エスマルクDF	BT水和剤	1000倍	発生初期 但し、収穫前日まで	-	散布
13	コテツフロアブル	クロルフェナビル水和剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布
22A	トルネードエースDF	インドキサカルブ水和剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
22B	アクセルフロアブル	メタフルミゾン水和剤	1000倍	収穫前日まで	3回以内	散布
28	ベネビアOD	シアントラニプロロール水和剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布
	ベリマークSC	シアントラニプロロール水和剤	400株当り25mL (希釈水量400株当り10～20L)	育苗期後半～定植当日	1回	灌注
	ブリロッソ粒剤	シアントラニプロロール粒剤	2g/株	育苗期後半～定植時	1回	株元散布
	ブリロッソ粒剤オメガ	シアントラニプロロール粒剤	2g/株	育苗期後半～定植時	1回	株元散布
	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド水和剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
	ヨーバルフロアブル	テトラニプロロール水和剤	2500倍	収穫前日まで	3回以内	散布
30	グレーシア乳剤	フルキサメタミド乳剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
UN	ブレオフロアブル	ピリダリル水和剤	1000倍	収穫前日まで	2回以内	散布

注) シアントラニプロロールを含む農薬の総使用回数は4回以内(但し、定植時までの処理及び定植直後の株元灌注は合計1回以内、定植後の散布は3回以内)ですのでご注意ください。

表3 トマトキバガに登録のある薬剤(適用作物：ミニトマト)

IRAC コード	農薬の名称	農薬の種類	希釈倍数または使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法
5	ディアナSC	スピネトラム水和剤	2500～5000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
	ラディアントSC	スピネトラム水和剤	2500～5000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
	ダブルシューターSE	脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤	1000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
6	アフーム乳剤	エマメクチン安息香酸塩乳剤	2000倍	収穫前日まで	5回以内	散布
11A	エスマルクDF	BT水和剤	1000倍	発生初期 但し、収穫前日まで	-	散布
13	コテツフロアブル	クロルフェナビル水和剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布
22B	アクセルフロアブル	メタフルミゾン水和剤	1000倍	収穫前日まで	3回以内	散布
28	ベネビアOD	シアントラニプロロール水和剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布
	ベリマークSC	シアントラニプロロール水和剤	400株当り25mL (希釈水量400株当り10～20L)	育苗期後半～定植当日	1回	灌注
	ブリロッソ粒剤	シアントラニプロロール粒剤	2g/株	育苗期後半～定植時	1回	株元散布
	ブリロッソ粒剤オメガ	シアントラニプロロール粒剤	2g/株	育苗期後半～定植時	1回	株元散布
	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド水和剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
	ヨーバルフロアブル	テトラニプロロール水和剤	2500倍	収穫前日まで	3回以内	散布
30	グレーシア乳剤	フルキサメタミド乳剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
UN	ブレオフロアブル	ピリダリル水和剤	1000倍	収穫前日まで	2回以内	散布

注) シアントラニプロロールを含む農薬の総使用回数は4回以内(但し、定植時までの処理及び定植直後の株元灌注は合計1回以内、定植後の散布は3回以内)ですのでご注意ください。

※IRACコードとは、殺虫剤の有効成分を作用点と作用機構から分類した番号や記号のことで、本コードが異なる薬剤を使用することにより、同一系統の薬剤の連用を防ぐことができます。

お問合せは、病害虫防除所(TEL：088-863-1132)または環境農業推進課(TEL：088-821-4861)まで